▶１階部分の押し入れ奥にはくっきりと水が進入した跡が見てとれた。今までで一番水が入り込んだもようだ。
▼流れが収まりつつある大井川とそれを見つめる栗原秀春さん。復旧には少なくとも10日以上かかる見通しだと話していた。

台風による浸水被害を受けた「ともしび」

直火焙煎のコーヒーの香り漂う地名の喫茶店「サンゴーカントリーともしび」
５年前、栗原秀春さん、春子さん夫妻の夢が実現した場所だ
今年に入って既に３回、１階部分が浸水するという被害を受け、
台風15号の際には、床上50センチの高さまで水が入り込んだ
10月９日の「５周年記念誕生祭」に向け、復旧急ぐサンゴーカントリーともしびを訪れた

右　台風直撃の翌日、栗原夫妻と共に地元消防団員も復旧の手伝いをしていた。「消防団の皆さんには本当に感謝している」とは栗原春子さんの談　**左**　床にたまった泥をかきだす春子さん。思った以上の重労働だ　**左**　庭先にて。木の幹に残った水の痕跡を指し示す秀春さん。腰の高さまで水が来た

15号が過ぎ去った翌日、サンゴーカントリーともしびの駐車場に車を止めると、栗原夫妻が建物から電化製品を運び出す作業の真っ最中だった。お客さんの休憩所として使っている建物の床には、一面に泥がたまり足の踏み場もない。カーテンや押し入れには浸水した水の跡がくっきりと残っていた。

床の泥を、じょれんでかき出しながら春子さんが言う。

「ここは前回の台風でも浸水し泥がたまりました。一度、床板を全部はがして泥を出し、張り替えたばかり。さすがにがっかりしてしまいますね。本当は今日もお客さんが来る予定だったんですが、全てキャンセル。バーベキューも予定していたので、とても残念です」。

秀春さんに台風が直撃した当日の様子を聞いてみた。

「前回の台風では床上20センチくらいまで水が入りました。今回はさらにひどかった。正午くらいまでは、それほど心配していなかったんですが、午後に入って、どんどん水かさが増してきました…」。

岸辺にあるベンチの脇には土のうの残がいが大量に積み上げられていた。暴風雨の中、消防団員が必死に積み上げたものだ。

「消防団の皆さんが建物回りに土のうを積んでくれたおかげでこのくらいの被害で済みました。今回の台風を含め、多くの消防団の方たちがともしびを守るため必死で作業してくれます。びしょ濡れになりながら土のうを積む団員の皆さんを見て『ああ、こういう人たちが地域を守ってくれるって何て心強いんだろう』って実感したんです。消防団の皆さんには感謝してもしきれません」。

秀春さんは言う。

「この場所が浸水する可能性は、10年に1度の大水が出た場合だと言われていました。しかし、ここ数カ月で、既に3度も浸水に遭っているんです。大井川の河床が上がっているのも原因だと思います。ここを利用してくれる人たちのためにも、一日も早い復旧を目指したいと思っています」。

ともしびは10月7日にオープン5周年を迎え、その直近の日曜日の9日にはそれを記念した感謝祭を開いた。会場には復旧に当たった消防団員の顔も見えた。秀春さんは「今日はともしびの誕生祭であり『復活祭』でもあります。お世話になった皆さんに、感謝の気持ちを表したいですね」とほほ笑んだ。

夜遅くまで、地元住民のにぎやかな声が響き渡っていた。

そのとき

川根町、川根本町内の国道・主要地方道・一般県道などの道路管理、一級河川・二級河川の管理、砂防・地すべり・急傾斜地対策など、住民生活に直結したライフラインなどの安全・安心を担う島田土木川根支所川根支所。台風災害に襲われた際、どういった対応をしたのかを、北島修主査に尋ねた。

島田土木事務所川根支所では

道路はライフラインの要 常に情報収集に努めたい

台風15号では川根支所管内で道路や河川にかなりの被害が発生しました。特に、激しい雨と風による倒木が多く、それによって道路が寸断されてしまうケースが目立ちました。倒木の中には電線を巻き込んで倒れたものも多く、むやみに触れられないため中部電力やＮＴＴの対応を待つしか方法がないものも多くありました。

川根本町が孤立した夜、川根支所には問い合わせの電話が夜中まで鳴り響きました。皆さんの逼迫している様子が、ひしひしと伝わってくるようでした。何とか孤立状態を打開しようと藤枝天竜線（笹間渡―身成）の復旧を目指しましたが、仮設で立てていた法面側のＨ鋼が何本か倒れ、その裏の土砂が次から次へと落ちてくるという状態が続いていました。重機で除去しても崩土は止まらず、危険性が高いと判断して夜間の復旧は断念。同時に進めていた迂回路（地名―抜里）の倒木処理を最優先に進めました。既に現場は暗くなり、倒木の法面上部の状態も見えないため、現場には見張りを立て、慎重に作業を進めました。倒木は数カ所に渡っており、除去作業には時間がかかりましたが、何とかその日の深夜には車を通すことができました。しかし依然として崩土や倒木が発生する危険性があったため、川根支所の職員２人と土木業者が交代で現場に残り、一晩現場を見張っていました。事務所に戻る頃には、夜が白々と明け始めていましたね。

現場の中には、地域住民の皆さんが自ら倒木などを処理し、車両の通行ができるようになった路線も多数あります。川根支所としても、全ての情報を把握しきれている訳ではありませんので、非常にありがたいことです。ただ電線に架かった倒木を処理しようとして感電するケースも実際にあるため、充分注意は必要ですね。

現在も旧春野町へ抜ける路線は路肩決壊が数カ所に及んでおり、危険な状態が続いています。早期に復旧できるよう手続きや作業を進めています。

台風、集中豪雨、長雨などによって道路が被害を受ける可能性は常にあります。地盤がゆるんでいる個所などでは、その時は大丈夫でも、次の雨で崩れる場合もあります。皆さんから寄せられる道路や河川の情報を元に、こまめに現場確認に出向き、対応したいと考えています。

道路は言ってみればライフラインの要です。道路が寸断されれば物資も運べないし人も行き来できません。これからも、職員全員大勢で気を引き締め、警戒を強めていきたいと考えています。

島田土木事務所川根支所
北島　修（おさむ）主査

島田土木事務所川根支所　島田市川根町家山1313-4
安らぎと生きがいのある社会を築くための社会基盤整備を目的として、川根支所管内（島田市川根町・川根本町）の国道・主要地方道・一般県道などの道路管理、一級河川・二級河川の管理、砂防・地すべり・急傾斜地対策などの事業を実施する機関。